

災害から身を守る

6月は土砂災害防止月間です。5月29日から新しい防災気象情報の運用が始まりました。雨が多くなるこの時期、災害についての情報をいま一度確認し、いざという時に備えましょう。
 ☎危機管理課☎(632)2052、河川課☎(632)2686

令和8年5月29日から新たな防災気象情報の運用が開始されました ID 1045759

☎危機管理課☎(632)2052

災害時に「いつ・どのように行動すればよいか」を、より分かりやすく伝えるため、防災気象情報の名称などが大きく変わりました。

下の表の内容を確認し、いざという時の行動に役

立てましょう。変更内容など、詳しくは、気象庁☎(635)7260へお問い合わせください。



▲気象庁☎

	河川氾濫 <small>鬼怒川・田川・姿川(※)</small>	大雨	土砂災害
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報
警戒レベル 1	早期注意情報		

注意

避難を開始する前に開設されている避難所を確認してください

警戒レベル3相当以上の情報が発表されたとしても、必ず避難所が開設されるとは限りません。避難をする際は、必ず市☎や登録制防災情報メールなどで、開設されている避難所を確認しましょう。

また、避難先は市が開設する避難場所だけではなく、安全な親戚や知人宅へ避難することや、自宅の2階へ避難することも検討しましょう。

防災メールの登録はこちら



▲登録制防災情報メール登録サイト

！ 主な変更点 ！

Point **警報・注意報などの情報名に「レベル」が付記**

警報や注意報などの防災気象情報に、避難行動と直結する「レベル」が付記されるため、避難行動開始の判断がしやすくなります。

▼例 (旧)「大雨警報」、(新)「レベル3大雨警報」

Point **「警戒レベル4相当」の情報名称は、「レベル4〇〇危険警報」に統一**

危険な場所から避難が必要な状況であるレベル4相当の情報が「危険警報」として発表されます。

▼例 (旧)土砂災害警戒情報、(新)「レベル4土砂災害危険警報」

Point **河川氾濫に関する危険度の伝え方の変更**

従来の「洪水注意報」・「洪水警報」という伝え方は廃止となり、河川の区分に応じて、次のように変わります。

■洪水予報河川の氾濫の危険度に関する情報

▼例 (新)「レベル2氾濫注意報」、「レベル3氾濫警報」など。

■その他の河川の氾濫の危険度

▼例 (新)「レベル2大雨注意報」、「レベル3大雨警報」など。



災害が予想される際は、避難情報に従い、速やかに身の安全を確保しましょう。

※ 本市の洪水予報河川

6月は土砂災害防止月間です

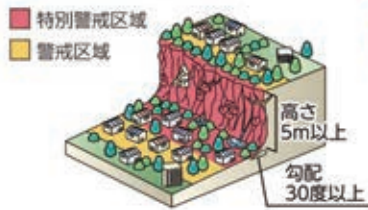
国土交通省では、土砂災害の防止と被害の軽減を目的に、6月を「土砂災害防止月間」と定めています。この機会に、自分自身のこととして土砂災害について

考え、家族で確認し、土砂災害に備えましょう。
 ☎河川課 ☎(632) 2686、県宇都宮土木事務所 ☎(626) 3146

土砂災害の種類と前兆現象

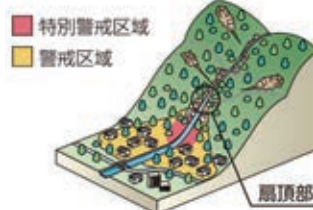
大雨や地震が発生した時、次のような前兆現象を見つけたり、危険を感じたら、近隣住民と声を掛け合い、自主避難してください。

急傾斜地の崩壊 (崖崩れ)



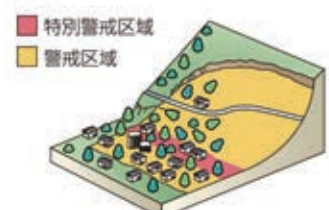
- ▼崖に割れ目が見える。
- ▼崖から水が湧き出ている。
- ▼崖から小石がぱらぱらと落ちてくる。

土石流

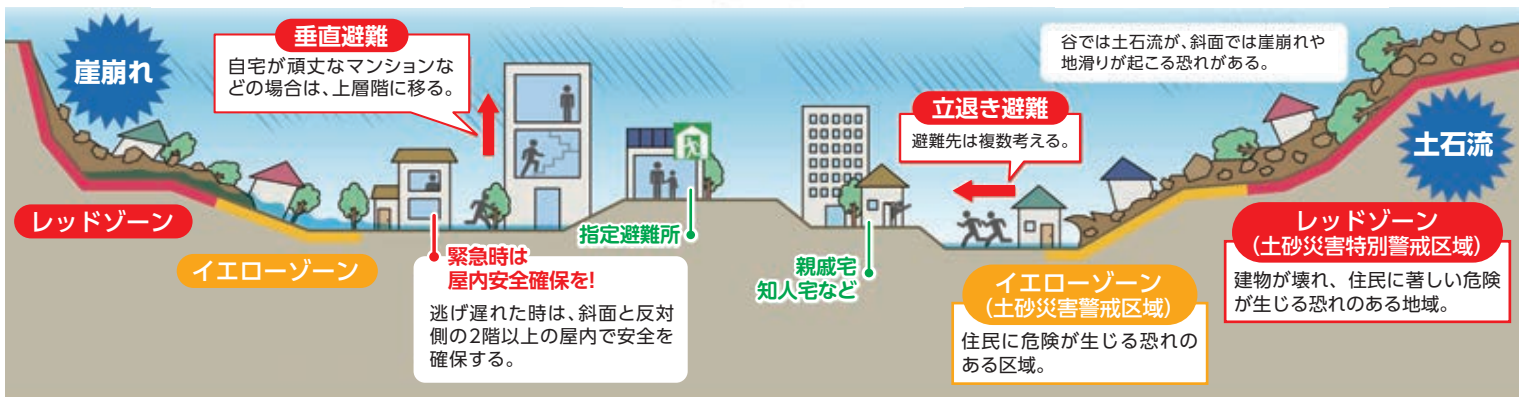


- ▼急に川の流が濁り流木が混ざっている。
- ▼山鳴りがする。
- ▼雨が降り続けているのに川の水位が下がる。

地すべり



- ▼沢や井戸の水が濁る。
- ▼地面にひび割れができる。
- ▼斜面から水が噴出する。



出典 宇都宮市防災ハザードマップ

日ごろから準備しておこう

▼ハザードマップとマイ・タイムライン
 「宇都宮市防災ハザードマップ」を活用して、事前に災害リスクの確認をしておきましょう。
 また、明日来るかもしれない災害に備え、一人ひとり（または家族単位）の「防災行動計画」であるマイ・タイムラインを事前に作成しておくことは、自ら考え命を守る避難行動のための一助となります。危険区域や避難場所などの確認、避難行動の見直しをしましょう。



▲WEB版ハザードマップ



▲市団「風水害から命を守るマイ・タイムラインをつくらう」

▼寝る場所に注意 就寝中に土砂災害が発生する場合があります。崖から離れた谷側の2階の部屋に寝るなど、土砂災害に備えましょう。

▼家庭内備蓄品と非常持出品の準備
 自宅にとどまるときや避難所に避難するときに必要な物を、最低3日分準備しましょう。

☑ チェックしてみましょう

- 貴重品
- 飲料水・食料品
- 照明・情報端末など
- 衣類・タオル
- 衛生用品（マスク・消毒液・体温計など）
- 応急医療品
- 生活用品
- 眼鏡・コンタクトレンズ

ID 1003237



▲市団「万一の災害に備えて(非常持出品)」